

二年学年だより

No. 10

1月号

令和5年12月28日発行

208HR

アレのアレから思うこと 第一章

年の瀬となりました。今年一年を振り返ってみても、実り多き一年であったのではないのでしょうか。さて、中央高校に在籍されます虎党の皆様方、誠におめでとうございました。18年ぶりのアレを達成しただけではなく、38年ぶりのアレのアレまでも達成されたことで喜びもひとしお、カーネル・サンダースの呪いからもようやく解き放たれたことかと思えます。来年もいい年になりそうですね。

さて、タイガースの本拠地であります甲子園球場は、スポーツ観戦が趣味の私にとって大変お世話になった場所です（生活費も得ていましたが……）。センバツや伝統の読売戦など、野球のイメージが強いと思いますが、12月の甲子園球場は、アメリカンフットボールの学生日本一を決定する甲子園ボウルの開催地でもあります。愛媛県に住んでいるとアメフトは馴染みが薄いかと思えますが、非常に見ごたえのあるスポーツです。

アメフトは、4回の攻撃権の間にパスやランなどを駆使して10ヤードずつ進み、相手のエンドゾーンにボールを持ち込むことで得点を重ねるスポーツです。その他のスポーツと大きく異なる点は、完全分業制であることです。攻撃の際には、攻撃専門の11名がパスやランで相手を翻弄し、守りの際には、守備専門の11名が豪快なタックルで相手の動きを封じ込めます。さらには、フィールドゴールやパント（注 陣地の回復を図るためにボールを前方に大きく蹴ること。4回の攻撃で10ヤード進めないと判断した時に行われる。）を担当するキック専門の選手、リターン専門の選手、他にも試合の分析を担うスタッフもいて、野球やサッカー、陸上、ラグビー、加えて情報部など、高校時代の自分の得意分野を異なる競技で組織のために生かそうと奮闘する姿には感動を覚えます。また、彩を添えるチアリーディングや応援指導部のパフォーマンスも魅力的です。

アメフトの分業制は、会社の構図と似ていると言われます。今、手に持っているこのプリントにしても、材料の仕入れを担当する部署、商品の開発を担当する部署、消費者のニーズを分析する部署、販売を担当する部署など、多くの部署の協力があって、君たちの手元に届いているのです。あと、5、6年もすれば社会に出ることになるかと思えます。そのために、今、練習してほしいことは、異なる立場の人と協力して物事を成そうとするときに、相手の考え方を尊重しつつも自分の考えや思いをどのように伝えるべきか、その工夫と自分の得意分野に更なる磨きをかけることかと思えます。

さて、来年は勝負の年です。現在、第4クォーターといったところでしょうか。自身の目標へのタッチダウンまで、残り何ヤード、残り何秒でしょうか。残り3秒からの大逆転！ という名場面もありますが、ワンプレイを大切に、時間を有効に活用してほしいと思っています。（208HR担任）

アレのアレから思うこと 第二章

大学生の頃、甲子園球場から数キロ離れたマンションに住んでいた。当時の私はミーハーなスワローズファンで、甲子園に何度も通っていた。風向きによっては、浜風に乗って、阪神戦の大歓声やジェット風船の音が自宅まで聞こえてきたことを思い出す。時折、ヤクルト戦以外の観戦に行くことがあった。その時はもちろん阪神側で。誰もが「六甲おろし」はもちろんのこと、選手の応援歌を歌い、時にはヤジを飛ばし、ブーイングをし、ヒットを打てば大歓声で盛り上がる。球場全体が一体化するあの雰囲気は独特で、勝っても負けても爽快な気分させてくれた。阪神ファンは、負けてもへこたれない。当然、試合に負ければ選手にヤジを飛ばすし、「何やっとなねん、もうあかんわ」と愚痴をこぼす。しかし、ファンはまた、球場に足を運ぶ。それだけタイガースというチームをこよなく愛し、38年間アレのアレを達成するまで、ファンたちは見捨てず、熱く応援し続けてきたのだ。選手にとっては、その熱い応援がプレッシャーになることもあるかもしれないが、優勝の原動力に大きく貢献しているに違いない。私の日常は、みんなに小言を言い、注意することから始まり、時折みんなのことを心配する毎日だ。阪神ファンに負けないようにこれからもみんなのことを熱く応援しようと思う。（208HR副担任）